

清川村立宮ヶ瀬小学校

研究テーマ：「わかった喜びの授業の研究」

～主体的な学びの中で児童が感じる「わかった！」の喜び～(極小規模校 宮小 Ver)

1 実践の目的

極小規模校のため、究極の個別指導になっている。だからこそ、その利点を生かしICTを活用し、「学びが楽しい」「ここでしかない学び」など個別最適な授業を追究する研究を行う。そうした授業を実践することで、児童が「わかる喜び」を実感し、それが学習への意欲を喚起し、児童の主体的な学びにつなげていく。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

極小規模校のデメリットを逆手に取り、管理職も積極的に参加し、チーム5人で作り上げる研究体制

(2) 具体的な方法

主要教科を中心に、校内研のたびに教科と単元をピックアップして授業の組み立てを立案。その場で5人が時間内に授業の組み立てを構想する。そして、順番に構想したものを模擬授業形式等で発表する。その際ICTを積極的に活用した授業の組み立てを取り入れていく。発表した内容を比較し、児童にとって「わかる喜び」「学びは楽しい」を主眼にして議論し、実際に授業実践をして、その授業の振り返りを行う。

(3) 研究協議の視点

- ・児童の主体的な学びにつながっているか。
- ・本校児童の実態を考え、「わかった喜び」につながっているか。
- ・ICTを効果的に活用できていたか。

- ・発問や課題提示など授業の組み立てはどうか。
- ・確かな学力を身につけさせる内容になっているか。

(4) 研究協議の様子

研究では管理職も参加し、模擬授業形式で大型モニターやタブレット端末を使用して、一人ずつ発表した。発表



後に、立場や経験年数に関係なく侃々諤々意見をかわしていった。それをもとに授業を実践し、振り返りを行った。



(5) ICTの積極的な活用

本校はICTを積極的に活用し、創造的な学習活動を実践していった。

【オリジナルラジオ体操制作】



ラジオ体操の伴奏に合わせて、宮ヶ瀬小ならではのセリフを児童自らが考え、タブレット

端末で録音した。次に、ラジオ体操の様子を撮影し、音声と合わせて動画制作をし、準備体操など様々な場面で使用した。また地域

の方にも配付し、地域行事などで活用してもらった。この動画は全国ラジオ体操コンクール取組部門に応募し、見事特別賞を受賞した。

【宮ヶ瀬小学校校歌ミュージックビデオ】



タブレット端末を使い、宮ヶ瀬小の校歌の合唱を録音し、歌詞に合わせて絵コンテを起こし、それを基に撮影・編集を行い動画制作した。小学校のHPに公開した。

合わせて絵コンテを起こし、それを基に撮影・編集を行い動画制作した。小学校のHPに公開した。

3 実践の成果

(1) 教師の思い

従来の校内研究の手法とは違う新しい研究手法で、普段の授業をどう作っていくかを模擬授業方式で考えることにより、授業に対する意欲や工夫を生み出すことができた。極小規模校という状況だからこそ、今までの概念に縛られることなく、校内研究や業務、授業づくりに取り組むこともできた。また、本年度の研究を通して、時代の価値観に合わせて変えていくことの大切さを感じた。加えて、昨今の教師の多忙問題を考えるきっかけにもなり、忙しさの中で、普段の授業力を向上させることが重要で、そのことが、時間的余裕を生み、働き方改革にも直結するということがわかった。有意義な研究であったとどの職員も感じていた。

(2) 児童の変容

校内研究をフィードバックし授業改善をその都度行ってきたの



で、児童の理解につながったといえる。それが児童自身の自信にもつながり、積極的に授業の中で意見を表明することが増えた。

また、ICTの創造的な活用が促進され、



学習活動や生活のいろいろな場面でアイディアの提案があった。アイディアをすぐに具現化し実践することによって児童の満足度も上がり、

次の活動のモチベーションにもつながっていった。

4 今後の展開

(1) 課題

本校は次年度の4月から休校になるため、研究は本年度で終了するが、研究を通して挙げた課題がいくつかある。

一つ目は、多忙の中でいかに有意義な校内研究を進めていくかということだ。限られた勤務時間の中で、現在・次世代の教育の価値観に即した校内研究の在り方を考える必要がある。

二つ目は、時代の変化に後ろ向きにならず、逆に変化をプラスにとらえ、対応しながら新しい研究の在り方を考えることである。

そして、三つ目はデジタル・ネイティブとして生まれてくる新しい児童に対応したICTの活用を教師自ら創造的に構築できるかということだ。今までの慣習や教育観に囚われることなく、温故を守りつつも智新を常に念頭に研究し実践していくことが肝要ではないだろうか。